

大会を振り返って ～男子選手総括～

JAPAN SPORT
COUNCIL
日本スポーツ振興センター

第8回アジア太平洋ろう者競技会 ～台湾・桃園～2015年10月1日～9日

競技力向上事業

梶下 怜紀

私は去る10月1日～9日の9日間にわたり台湾で開催された第8回アジア太平洋ろう者競技大会に出場し、シングルス金メダル、ミックスダブルス銅メダルを獲得いたしました。男子ダブルスは二位(アジア大会ルールによりメダル贈呈なし)私にとって、デフテニスでのメダル獲得は、2009年に開催された台湾デフリンピック出場以来であり、まず結果が出せてよかったと感じています。私は、台湾デフリンピック以来、デフテニスの試合などには一切出場せず、一般の賞金付きトーナメントに出場するなど一般アスリートとして活動して参りました。

今年、台湾デフリンピックから約6年ぶりにデフテニスの国際大会に出場してみて、思ったことがあります。アジア圏のデフテニスは世界的に見て大きく取り残されているというのが率直な感想でした。世界選手権と今回の大会に出場してみて感じたことは、日本含め、アジア圏以外の国から大きく差をつけられている点であります。今回の日本テニスチームは多くのメダルを獲得しましたが、今回の結果は、世界に向けたただの通過点でしかないことをしっかり受け入れ、2年後のデフリンピックに向けてより一層質を上げて取り組んでいく必要があると痛感いたしました。

現在の世界デフテニストップ選手のレベルは6年前と比べてワンランク上がっていますが、アジア圏含め全体を見渡してみるとさほど変化していないように見えます。日本は、トップレベルにあまり目を向けず、全体的なレベルに合わせてしまっている傾向があると感じています。このままではトップに食い込んでいけないと思っています。6年前と比べてトップ選手のテニスが変わっていたところは、今後注目すべき点であると考えています。

シングルスはドローに恵まれた点もあるが、全体的に余裕を持ちながら自分のペースで進めていけました。ただ、初日と2日目の練習と調整で調子があまり上がらず、1試合目の中国 TANG 選手との試合は、自分の思うようなプレーが出来ず、イメージと修正の繰り返しでした。その次の試合は台湾の LIN 選手と対戦しましたが、ここでフットワークを重視、ボールをしっかり捉えることが出来るポジションに入れたら少しコントロールを上げて攻めるといった目標を立て、試合に入りました。結果的にイメージしていたところまでは、自分のテニスを持っていったので、準決勝、決勝を戦う準備が整ってきた感じでした。準決勝は、松下哲也選手との対戦でしたが、諸事情により棄権となり、そのまま決勝は親松直人選手との対戦となりました。正直、決勝でも自分の思い描いていたテニスは出来なかったが、パワーを抑え、コントロール重視でゲームを組み立てていくことにより、コンスタントにポイントを取っていけました。

男子ダブルスは、棄権、選手負傷などアクシデントの多い試合となり、想定通りに進まなかった試合となりました。初戦が台湾の LIN 選手、WANG 選手、そして次の試合はいきなり決勝となり、鈴木裕将選手、親松直人選手との対戦となりました。ダブルスは全体的にダブルスのテニスが出来ておらず、ペアの松下さんの調子をうまく引き出していけなかったと感じました。合宿は当然ですが、合宿以外でもダブルスを想定した練習をもっと取り入れていかなければならないと思いました。私とパートナー共に個人の調子は決して悪くなかったが、今回は練習量とダブルスに対する取り組みで相手に一步及ばなかったと感じました。

最後にミックスダブルスですが、初戦、台湾の CHIN 選手、HO 選手との対戦でした。この試合の相手選手は、私の親より年上と聞き、コートに入った瞬間から試合の内容より、選手として絶対負けられないという気持ちが強かった試合でした。この試合ではパートナーとお互い自分のやるべきことを確認し合い、それを試合の中でしっかり実践していったところが勝利につながったと思います。準決勝は台湾の WANG 選手、HO 選手との対戦となりました。この試合はミックスダブルスの戦術ができていくかどうかの差が大きく出た試合でした。特に台湾の女子選手を見て、男子選手のボールに対してもしっかりとぶつかっていけるところは試合で大きな差となって出てくるのだと感じました。

松下 哲也

男子シングルス

ドローは第2シードに入り、2回戦からになりました。

1回戦を偵察してみると両方とも自分がいつもの通りプレーすれば勝てる相手なので、準備万全して臨みました。リスクを冒さず堅実なプレーしたので、1ゲームだけ取られただけで勝利することが出来ました。

ベスト4はダブルスパートナーでもある梶下と当たることになりました。その試合後、決勝進出に賭けたダブルス試合が控えていました。私は大会前から怪我をいくつか抱えていて、シングルスでお互い、体力消耗してダブルスに挑むのは得策ではないと思い、梶下と相談し、私が途中棄権して体力万全状態でダブルスに挑むという作戦を取ることにしたので、試合途中棄権しました。

本当は最後まで戦いたかったのですが、それほどやむを得ない状況でした。これで2大会連続銅メダル獲得することが出来ました。

やりきった感じがなかったので、前回大会のほど、喜びはありませんでした。

男子ダブルス

初戦の台湾ペアはダブルス巧者の王選手がいますが、もう一人の林選手は強くない選手だったので、その選手を狙うことと、林選手をカバーする為に王選手が出てきたところ、空いたスペースを狙う作戦でやりました。狙い通りに勝つことが出来ました。

ベスト4は中国ペアが棄権したことにより決勝へ進みました。シングルスを棄権してまで準備したので、試合したかったのが本音でした。

決勝は同じ日本ペアでした。序盤は我々がリードしたのですが、相手は合宿から一緒に練習したことで、私の調子を知り尽くしているので、不調のところを突かれ、梶下は私をカバーしようと思い、ギアアップして応戦しましたが、ミスが増加する悪循環に陥ってしまいました。日本以外ペアだったら結果が違っていただかもしれません。それぐらいやりづらかった試合でした。

参加国が少ないことで銀メダルはもらえませんでした。もらえても嬉しくなかったので、これで良かったと思いました。

混合ダブルス

初戦はくじ運が悪く、世界大会2位の台湾ペアと当たりました。もちろん、勝つつもりで最後まで戦いましたが、私のサーブが好調で全部キープすることが出来たのですが、豊田のサーブゲームをキープが出来ず、相手のサーブを一度もブレイクが出来なかった。展開が早くて付いていくのが精一杯状態で、完敗でした。勝った台湾ペアは次々に圧勝で優勝しました。これが世界レベル・・・そのペアを勝てないとデフリンピックで結果を出すのは難しいと思い知られた試合でした。

総括

今大会は前回大会よりレベル低下した感じが受けられました。

豪州1名、インド男子選手が突然不参加、中国選手は試合前日に台湾到着によってコンディションが整えずに試合を臨むことで日本、台湾以外の各国は今大会に賭ける意気込みが低いと感じました。

オーストラリア、中国の実力選手が加齢やトレーニング不足で以前より実力が衰えを感じました。

日本男性陣の成績が良いように見えますが、デフリンピックのレベルまでは達していないので、そのままでは惨敗の結果になるに違いありません。今までより2,3倍以上、練習をしないといけないと思いました。

私は子育てなどをしながら精一杯、練習してきたつもりですが、結果は出せませんでした。

原因は練習不足としかありません。それほど、甘くないという現実を思い知られました。

今まで以上に、練習確保するのは難しいと思うので、今後の進退は時間をかけて考えたいと思います。

親松 直人

今回初めて国際大会に出場し、とても良い経験を得ることができました。

アジア大会を迎えるまで何回か強化合宿を行い、毎回自分のテニスの出来に納得がいけないことばかりで、合宿以外の練習をどうしなければいけないのか、悩んで悩んでの日々でした。しかしアジア大会がだんだん迫ってくるたびにどんどん自分のテニス、モチベーションが上がっていき、とても良い状態で本番を迎えることができました。

10月1日に成田空港から台湾に約三時間かけて向かいました。台湾につき、夜なのにも関わらず蒸し暑くバスまで歩くだけでもかなり汗がでて、昼間ならもっと暑いのではと感じました。そして2日、3日は練習日で調整しながらさらにいい状態、いいモチベーションを迎えることができ、開会式も参加することでいろんな競技、様々な人々と出会い、改めて日本代表として参加しているのだと実感がわいてきました。

4日から試合が始まり、私は男子シングルスとミックスダブルスがあり、2試合行われました。男子シングルスは台湾の人とあたり、5-7, 6-3, 4-3と相手の痙攣により棄権勝ちで約3時間半かけて勝敗が決まりました。最後まであきらめずに攻めながら一つ一つのポイントに声を出しまくり、粘れたこと、ポイントを取るたびに拍手やガッツポーズをしてくれた日本チームの応援があったことが勝因です。台湾の選手はとても強い選手でデフリンピックでも活躍している方でその選手に勝つことができたのはとても自信になりました。

ミックスダブルスは台湾ペアとあたり6-0, 6-3で勝ちました。ペアの村山さんとしっかり話し合いをし、いい状態に持っていけたのが勝因だと思います。

5日目は男子シングルス、男子ダブルス、ミックスダブルスがあり、3試合行われました。

男子シングルスは第1シードオーストラリアの選手とあたり、6-1, 7-5で勝ちベスト4となりました。スピンボールを主体としたプレーをしてくるためやりにくさはありませんでしたが、要所要所を押さえたことが勝因だと思います。男子ダブルスは台湾ペアに6-0, 6-0で勝ち、ベスト4に進出しましたが、準決勝でインドペアが棄権をしたため、決勝に進出することが決まりました。ミックスダブルスは中国人ペアとあたり3-6, 6-4, 10-4で勝ちベスト4に進みました。村山さんとうまくかみ合わず途中までお互いの息が合わないまま流れが悪い状況でしたが、最後まであきらめずにフォーメーションなど取り入れたことが勝因だと思います。

6日目は男子シングルス、ミックスダブルスが行われました。シングルスは日本の選手とあたり同士討ちという形になり、7-6(2), 6-0で勝ち決勝に進むことができました。非常にやりにくかったが途中から自分のペースになりしっかり取りきることができたことが勝因です。ミックスダブルスは台湾ペアとあたり、6-4, 6-4で勝ち決勝に進むことができました。

7日目は男子ダブルス、ミックスダブルスの決勝が行われました。男子ダブルスは同士討ちで7-5, 6-0で勝ち初優勝をすることができました。緊張していたがお互いに楽しんでプレーをすることができたのが勝因だと思います。ミックスダブルスは台湾ペアに1-6, 1-6で負け、準優勝となりました。台湾ペアはデフリンピックで3位をとったペアで、全力で臨んだがだいぶ差がでた試合だと感じました。しかしここから改善していけば勝てるだろうと思える内容でした。

8日目男子シングルス決勝が行われました。日本人対決でしたが結果は1-6, 1-6で負け準優勝となりました。ポイントは取れていても大事なポイントは取れないという内容でした。まだまだ力不足だと痛感しました。

今回のアジア大会では男子ダブルス優勝、男子シングルス、ミックスダブルスは準優勝という結果になりましたが、まだまだ沢山の課題が見つかった大会でした。良い戦績を残せたということはとてもうれしく思いますが、デフリンピックで勝てなかったらこのアジア大会での戦績は無駄になってしまうのではと思います。なので自分で

つかみ取ったチャンスを生かし、デフリンピックではもっと納得のいく試合ができたかなと思います。
そしてこのような戦績を残せたのは自分一人ではできなかったことです。日本チームをまとめみんなを引っ張ってくれた斎藤監督、練習メニューを考え良い調子に仕上げてくれた梶下コーチ、飛行機やホテルなどの予約をしていただいた梶野事務局、選手のために駆け回ってくれた尾形スタッフ、全試合すべてマッサージ、テーピングを巻いて頂いた佐野村トレーナー、カンパをして頂き、最後まで応援をして頂いた方々。色々な人に支えられての試合だと自分は感じました。とても感謝しきれません。
また家族には納得いくまでテニスをやらせてくれたこと、家族の協力がなかったらここまで来れませんでした。本当にありがとうございます。

最後になりますが、応援していただいている皆様がいての初めての日本代表といえるのではないかと私は思っています。日本代表になり試合出来たことをアジア大会後でも誇りを忘れずにしっかり練習していきたいと思っていますので今後ご指導などよろしくお願い致します。
本当にありがとうございました。

鈴木 裕将

10月4日～8日の5日間、台湾・桃園で開催されたアジア大会テニス競技に出場しました。
自分自身にとってアジア大会は国際大会3度目の出場となり、海外遠征での環境に慣れることはあつという間でした。
男子シングルス戦は銅メダル、男子ダブルス戦は優勝という結果になりました。
この好成績を残すことが出来たのは、斎藤監督をはじめ、梶下コーチ、尾形スタッフ、トレーナーの佐野村先生のサポートのおかげだと思います。
10月1日に現地入りし、斎藤監督と梶下コーチの指示に従い、尾形スタッフから飲食物などのサポート、佐野村先生から気象情報とコンディションチェックとマッサージなど選手が万全な状態でプレーが出来るように積極的にやってくださったことがとても大きな励みになりました。
他の参加国に比べ、日本チームの良さが出ている大会だと感じました。
課題として挙げられる点は、メンタル面とフィジカル面のバランスです。
特にシングルス戦準決勝は、セットポイントのゲームで攻めきれずチャンスを逃し、長期戦に持ち込んだことで、激しい体力消耗をしてしまったことです。
結果的には最後まで諦めない気持ちで勝つことが出来たが、1日で3試合出場していたら、きっと良い結果が出せていなかったと思います。まだまだだと痛感しました。
アジア大会のみならず、2年後のデフリンピックトルコを見据えると、メダルへの道のりはとても厳しいと思います。
今後、これまでの自分がやってきたテニス練習や環境を変え、もっと追い込まなければならないと思いました。まずは出来ることから目標を立てて、磨いて行きたいと思います。
また、日本代表としてふさわしい行動やプレーを引き続きしっかりやれるように努力して行きたいと思います。
支援など応援していただいた皆様、誠にありがとうございました。